

# 秋田における市街地木質化について

秋田公立美術大学美術学部美術学科

小杉 栄次郎

## 1 課題を取り上げた背景

2000年の建築基準法改正により中高層耐火木造建築が可能となり、その実現に必要な構造・防耐火技術が開発され、近年では中高層耐火木造建築が実現され始めている。森林国である日本において、建材としての木材を都市部においても積極的に活用することは、持続可能な社会、都市、街を形成するために重要であり、新しい都市景観デザイン理論を確立することが必須となっている。また、昨今では空き家・空き店舗など、都市の既存ストックを活用したまちづくりが注目されており、こうした手法も視野に入れた理論構築も求められている。本研究は、私自身が関わった都市木造や木質材料の最新技術をベースに、新築だけでなくリノベーションも含めた都市景観デザイン手法と設計理論の確立を目的としたものである。

## 2 講演内容

平成 25 年に提案した秋田駅周辺を中心とした市街地木質化都市計画「秋田ブルーラルシティー構想 Ver. 0.0」を発表した。その計画提案から 5 年間の間に、東西自由通路内のインナーリビング構想が地域木材をふんだんに使用した「秋田駅待合ラウンジ他」という形で実現し、2 階建てであった JR 西口駐車場も 5 階建て立体駐車場として外装に地域木材を活用して立て替えられるなど、提案の多く実現されてきている。それらの内容や経過について写真を交えながら発表した。